

研究データとオープンサイエンスフォーラム
2016年3月17日（木）

RDA東京大会 参加報告

国立国会図書館 電子情報部
電子情報流通課 標準化推進係
福山樹里

参加の背景

科学技術情報整備審議会による提言

・・・とは？

- 審議会は、NDLにおける科学技術情報の整備計画について、館長の諮問に答え調査審議するために設けられた。
- 提言は、「深化型知識インフラ」の実現に向けて、現状の課題を整理した上で、今後5年間を目途にNDLが取り組むべき役割について示している。平成27年12月、館長に手交。

イノベーションを支える「知識インフラ」の深化のための提言 ～ 第四期科学技術情報整備基本計画策定に向けて～

平成27年12月14日

全体構成

はじめに

本提言の位置付け = 前提言の考え方を継承。国の計画との連携

1 国立国会図書館の第三期科学技術情報整備基本計画の評価

今期における主要な達成状況と残課題の提示

2 「知識インフラ」の整備を巡る国内外の現状と課題

冒頭で「知識インフラ」の重要性について再確認

諸外国の先進的な取組を紹介しつつ、我が国における現状を踏まえたうえで
国全体としての主要課題を提示

3 国立国会図書館が果たすべき役割

第三期の課題と2に提示した主要課題を受けて、次期計画期間中に
国立国会図書館が実施すべき事項を提示

おわりに

イノベーションを支える「知識インフラ」の深化のための提言 ～ 第四期科学技術情報整備基本計画策定に向けて～

平成27年12月14日

3 国立国会図書館が果たすべき役割

(1) 「知識インフラ」の深化に必要な機能

「深化型知識インフラ」の実現
「恒久的保存のための領域」と「利活用促進のための領域」
国立国会図書館への期待

(2) 恒久的保存のための取組

- ① 学術情報をはじめとする情報資源の収集とデジタル化の推進
- ② 関係機関との連携の推進
- ③ 電子情報資源の長期的アクセスの保証

④ オープンサイエンスにおける新しい役割

- ⑤ 図書館界のアグリゲータとしての役割

(3) 利活用促進のための取組

- ① 多様なコンテンツのメタデータの統合的検索機能の提供

② メタデータの標準化・オープンライセンス化の促進

- ③ 目的別・テーマ別ポータル提供への協力
- ④ コンテンツを利用しやすくするための制度整備
- ⑤ 国立国会図書館のデジタル情報資源の利活用の促進
- ⑥ 国立国会図書館が作成するデータのオープン化

イノベーションを支える「知識インフラ」の深化のための提言 ～ 第四期科学技術情報整備基本計画策定に向けて～

平成27年12月14日

3 国立国会図書館が果たすべき役割（抜粋）

（2）恒久的保存のための取組

- ① 学術情報をはじめとする情報資源の収集とデジタル化の推進
- ② 関係機関との連携の推進
- ③ 電子情報資源の長期的アクセスの保証

④ オープンサイエンスにおける新しい役割

- 研究データの長期保存の検討
- 研究データの共有・保存の啓発
- 研究データと文献を結びつけるための識別子の普及の推進
- 研究データの組織化に向けた取組

- ⑤ 図書館界のアグリゲータとしての役割

イノベーションを支える「知識インフラ」の深化のための提言 ～ 第四期科学技術情報整備基本計画策定に向けて～

平成27年12月14日

3 国立国会図書館が果たすべき役割（抜粋）

（3）利活用促進のための取組

①多様なコンテンツのメタデータの統合的検索機能の提供

②メタデータの標準化・オープンライセンス化の促進

- メタデータやプロトコルの標準化、API公開の環境整備
- 識別子の付与・普及の強化
- メタデータのオープンライセンス化推進へ向けた普及活動

③目的別・テーマ別ポータル提供への協力

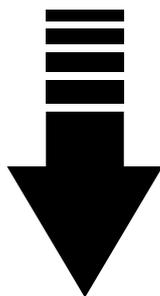
④コンテンツを利用しやすくするための制度整備

⑤国立国会図書館のデジタル情報資源の利活用の促進

⑥国立国会図書館が作成するデータのオープン化

イノベーションを支える「知識インフラ」の深化のための提言
～第四期科学技術情報整備基本計画策定に向けて～

平成27年12月14日



- 3 国立国会図書館が果たすべき役割**
(2) 恒久的保存のための取組
(3) 利活用促進のための取組

第四期国立国会図書館 科学技術情報整備基本計画 (策定中)

「科学技術情報整備に関連する諸計画」のページで公開予定

<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/tech/plan.html>

(現在は第三期科学技術情報整備基本計画まで公開)

NDLからのRDA参加

- 2014年から参加
- 第7回は2人参加

参考: イギリスとドイツの国立図書館

- 識別子の付与、普及
- メタデータの標準化、集約、流通
- DataCiteのメンバーとして
DOIを扱う担当者への研修を実施

RDAに参加して（私見）

●聞かれました 1

「NDLには、やりたいこととかないの？」

→「NDLを必要としてほしい&使ってほしい」

必要とされることはなんだろう？

●聞かれました 2

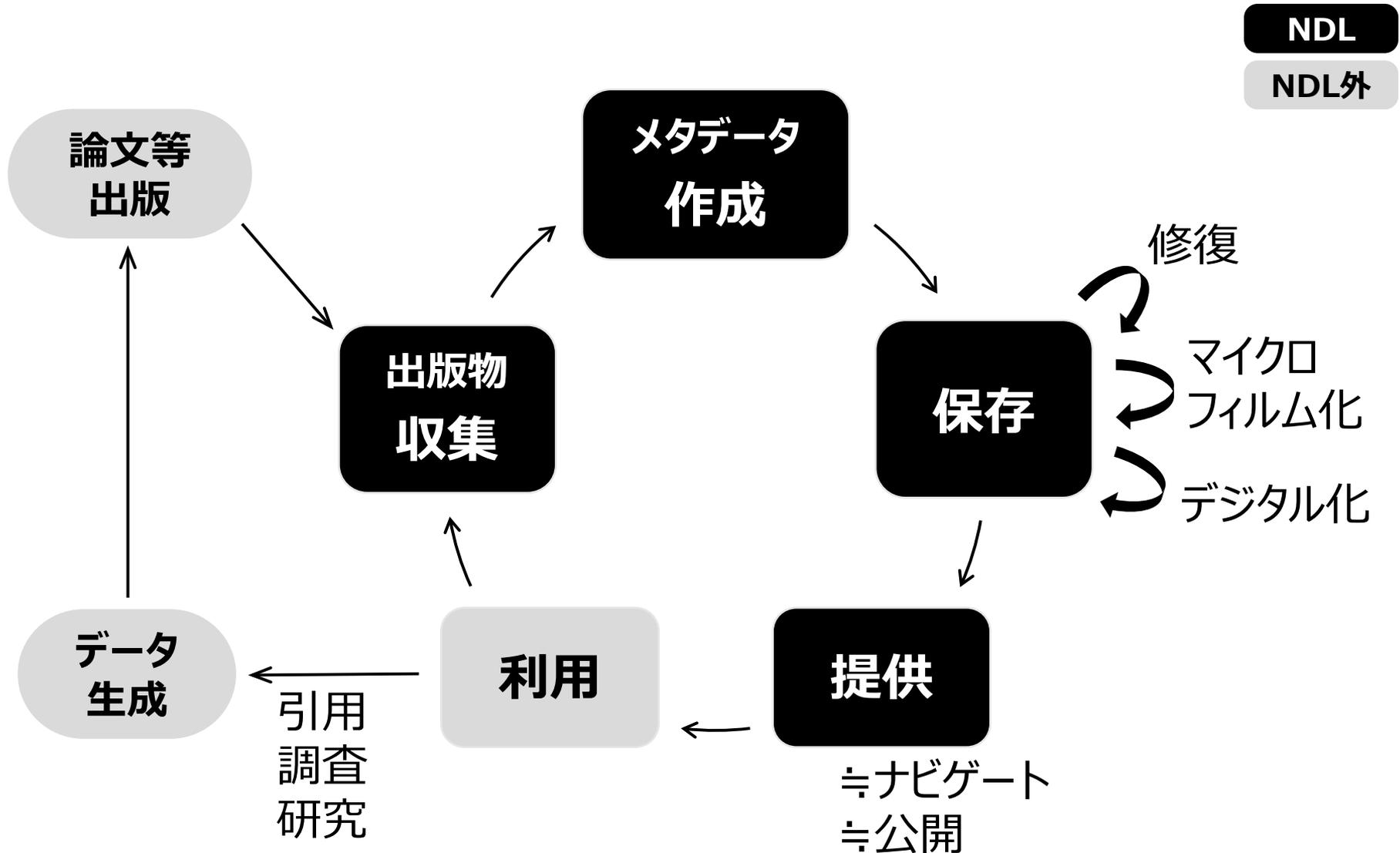
「NDLの仕事って、なんなの？」

→「永続的アクセスの保証」

すべきこと、できることはなんだろう？

RDAに参加して（私見）

NDLの永続的アクセスの保証、これまで for 出版物



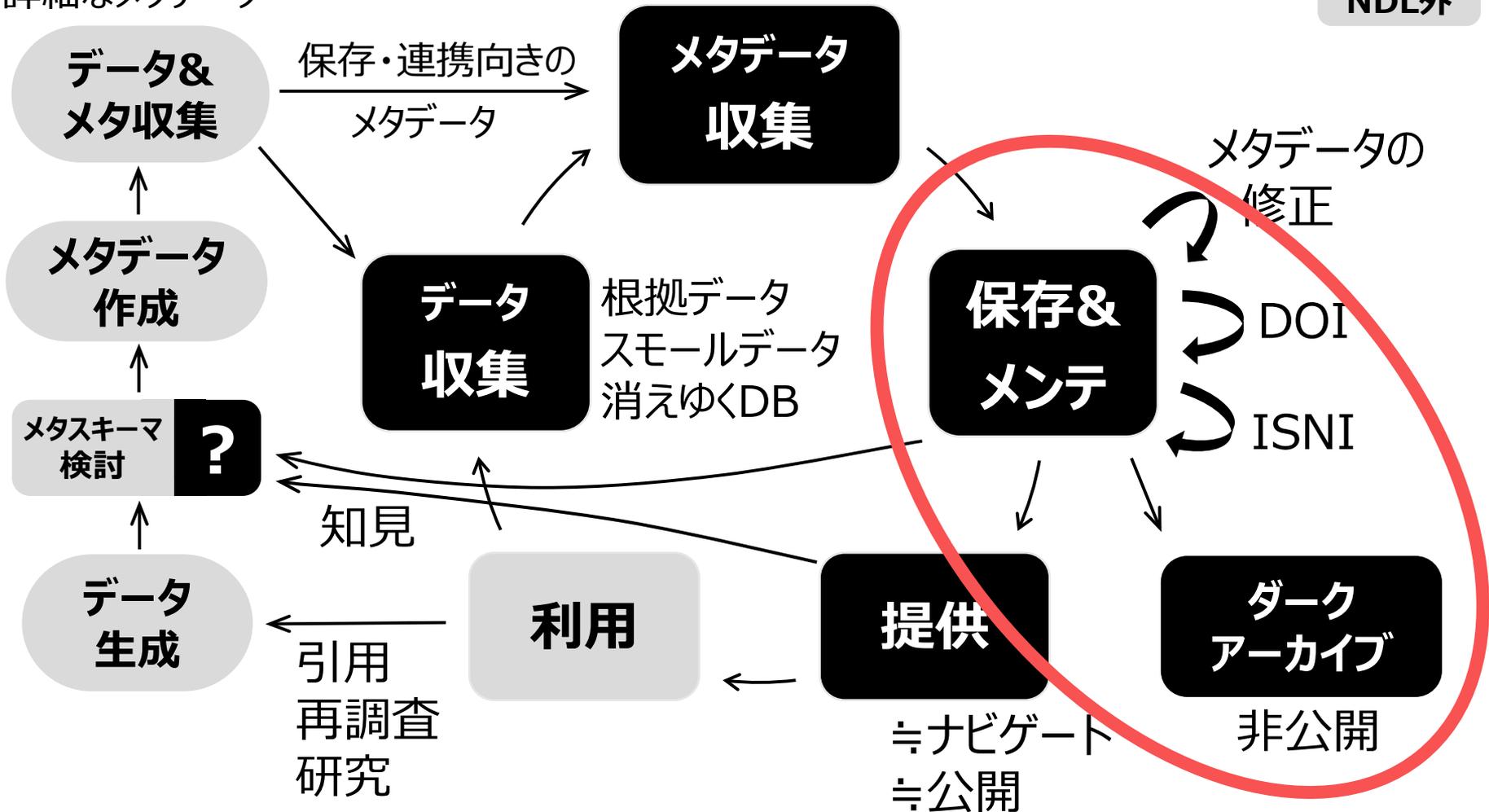
RDAに参加して（私見）

NDLの永続的アクセスの保証、プラスアルファ for 研究データ

各種リポジトリ用の
詳細なメタデータ

NDL

NDL外



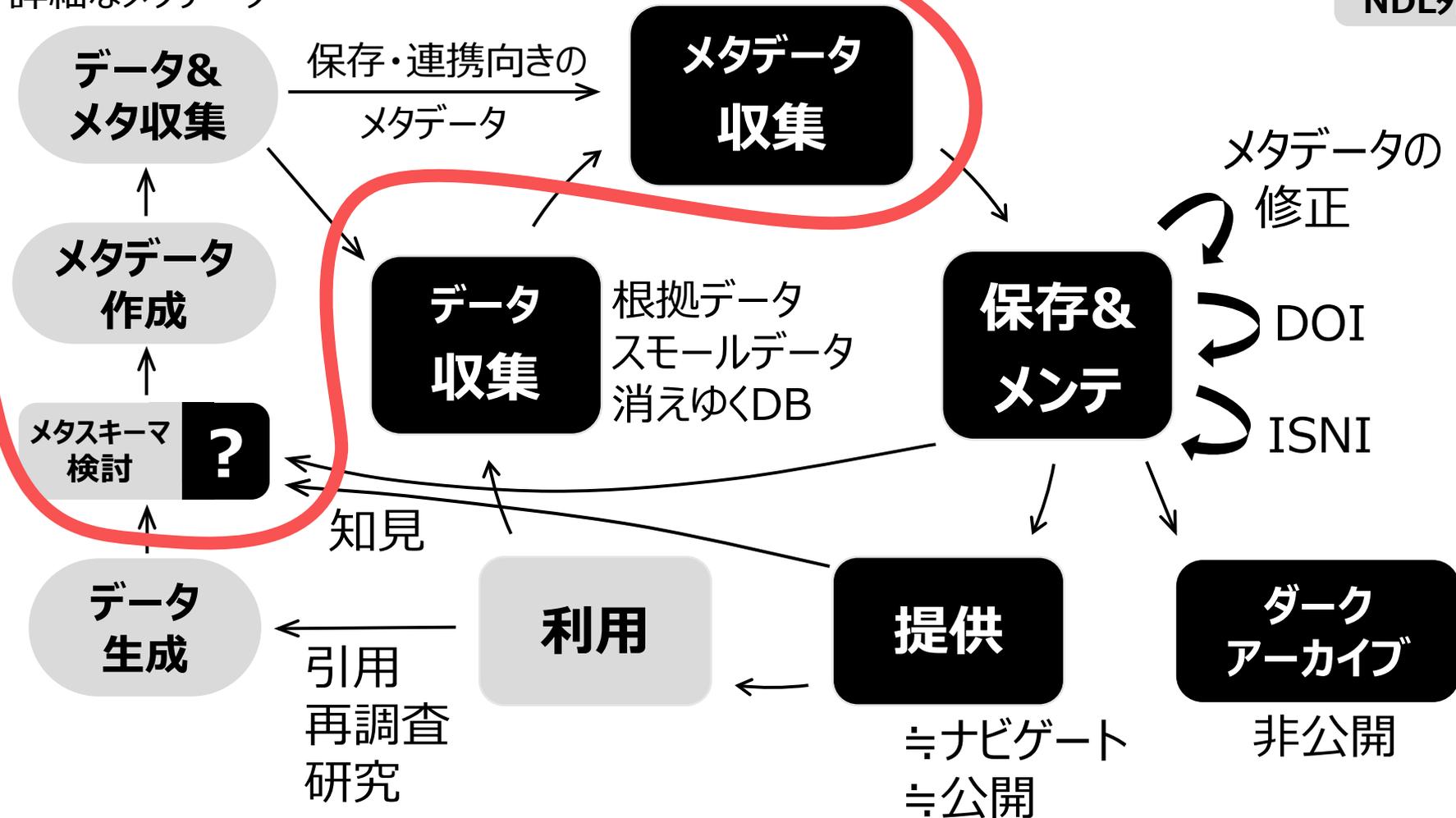
RDAに参加して（私見）

NDLの永続的アクセスの保証、プラスアルファ for 研究データ

各種リポジトリ用の
詳細なメタデータ

NDL

NDL外



これからのために

- 参加を通じて得られた知見
欧米ではトップダウン方式で
オープンサイエンスが進められている。
(研究データ計画の提出の義務化など)
→日本の状況に合うかは疑問
- 聞かせてください1
「オープンサイエンスの欧米式でない進め方、
あるとしたらどんな形が考えられますか？」

これからのために

- 参加を通じて得られた知見
オープンサイエンスを進めるうえでは
さまざまな部分に課題がある。
→メタデータ、長期保存、分野横断的検索etc.
- 聞かせてください2
「日本の研究者と、図書館員とで、
共働できる部分はどこにあると思いますか？」
#たとえばメタデータスキーマの検討？